

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0773200613		
法人名	社会福祉法人 ふたば福祉会		
事業所名	せんだんの家		
所在地	福島県双葉郡双葉町長塚字谷沢町25-1 (電話) 0240-33-5101		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年8月24日	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(平成19年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り	平屋建
	1階建ての		1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	320円	昼食 320円
	夕食	320円	おやつ 40円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(7月25日現在)

利用者人数	8名	男性	4名	女性	4名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.6歳	最低	79歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	双葉厚生病院、佐藤歯科病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

立地は大型特別養護老人ホームの奥に位置している。利用者の加齢により活動参加意欲に欠けている状況にある。しかし、職員は利用者個別に自宅へ出かける関わりを実施しており、線香をあげたり家族と話をすることで利用者の精神的安定を図っている。その機会としては毎月の請求書を郵送せずに訪問し届けてくるという形をとっている。ケアに関しては利用者の担当制をひいており、経過観察や介護計画原案作成などを任せることで利用者を深く観るようになってきたという効果が管理者、職員ともに実感できている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を担当制にして改善に努めた。ホーム便りは併設施設の便りの一部に掲載されていたが、独自の便りとなった。利用者のアセスメントは全員見直しをかけた。利用者ごとの「ジェノグラフ(家族構成図)」を作成し、家族の状況がわかりやすくなった。玄関・共用スペースも家庭的になっていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で各自作業し、リーダーがまとめたものを管理者が確認し、作成した。業務の振り返りにもなっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議は定期的開催している。最近では雰囲気も堅苦しいものでなく、様々な意見をいただけるようになった。最近では外出の際に職員の声かけが不適切に感じられたことを指摘されたり、独自の運営規程を作成するに当たっては原案を法人にあげる前のチェックをして頂いた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 行事を開催すると家族が多く参加されるということで、その機会を利用してアンケートをとっている。内容は行事に関する意見や改善点のほか、日頃気づいている点など幅広く集めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の方が訪れにくい状況にある。利用者も徐々に足腰が弱り外に出たがらないという課題がある。しかし、それを補う発想として利用者を個別に外出させる取り組みをしている。それもニーズに応じて自宅に行ってお茶を飲んだり家族と交流したりする場を提供している。しかし、家族以外の地域の方を招き入れる解決策はまだ見えない。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前は併設の特別養護老人ホームの理念をそのまま掲示していたが、管理者研修で独自の理念の必要性を感じ、「優しく話を聴いておだやかに見守る」という理念をスタッフ全員で話し合い作り上げ、玄関に掲示してある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員も共有しておりケアに行き詰ったときには理念に戻って考えるようにしている。また、ニーズを把握するときも、まずは傍で話を聴くという理念に基づいた姿勢で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会やお祭りに参加しているものの地元の人々との日常的な交流は少ない。ホームが併設の特別養護老人ホームの奥にあり、特別養護老人ホームの敷地自体も大きいので気軽に訪れにくい状況であるが、利用者個別になじみの関係先へ出かけるようにしている。	○	なじみの関係先へ出かけるようにする取り組みを継続しつつ、今後はその関係者がホームへ訪問していただけるような取り組みを検討いただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果をスタッフ全員で確認し、内容を分担して改善項目の解決に当たった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月ごとに開催している。言葉遣いに関する注意を受けたり、運営規程原案に関する意見をもらうなど、徐々に具体的な内容の話も出るようになった。</p>	○	<p>現在の課題である地域とのつながりの改善策に関して意見を求めるなど運営推進会議を活用してほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会、電話を利用して利用者の暮らしぶりなどの報告をしている。また、利用者の自宅が近いことを利用し、請求書類などを郵送せず訪問し届けている。時には利用者も一緒に出掛けており、単身生活を送っている利用者の配偶者の安否を確認している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているがまだ苦情や意見がない。また、ホーム独自の行事を行った際に、行事自体に関する意見やその他運営に関する意見をアンケートで把握している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は利用者への影響を考え、最小限にしてある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員の誰かは研修に参加するなど頻回に機会を設けている。また利用者の担当制をとり、介護計画作成や経過観察などを任せている。その結果、職員各々の気づきや利用者深く観察するようになるなどの効果も出ている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浜北地区のグループホーム連絡協議会主催の交流研修に参加している。また管理者同士の会議には職員のリーダーも参加させ、職員レベルでも交流できる機会を積極的に設けている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や家族の面会の際などの喜怒哀楽と一緒に感じられるように傍にしている。また、利用者からは生活の知恵を教えてもらうなど関係を築く関わりを持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傍に行って顔を見て話すこと、時間をかけて観察したり訴えを聴くこと、場合によっては職員を変えて聴いてみるなど試みている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとに開催日時を決めて、話し合いを行っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。また、状況変化時にはその都度行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には職音が同行している。その際にはケース記録を持参し情報提供ができるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族、職員にて繰り返し話し合いを行いながら方針を検討し、その方針を共有してケアを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	写真を広報に載せるにあたり家族から写真掲載の同意を得ている。また、利用者が恥ずかしがらうような言葉かけを慎むよう注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを大切に、ホールに出て利用者同士交流することも、長い時間部屋にいることも尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年齢を重ねるごとに調理などに参加する意欲が低下しているが、なるべく楽しみながら食事ができるようにホットプレートを使用したり、おはぎなど懐かしい料理を目の前で作り興味を持てるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者によって毎日入浴したり、夕食後に入浴している。入浴をしたがらない方にはチェック表に入浴していない日数を明記して、4日目以降は積極的に入浴を促すようにしている。仲の良い方2人で入浴している方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	楽しい時間が過ごせるよう外食を企画している。また、JAの移動販売を利用して買い物ができるような場を設けている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物に行く際には大型スーパーではなく、お茶も飲んで交流できる婦人会の「ふれあい産直」で野菜を買うようにしている。また自宅に帰りたいとの希望があると個別に利用者の一時的帰宅を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中かけていない。フェンスの扉は夜間も開けるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	先月、併設の特別養護老人ホームと共同で避難訓練を実施したが、うまく機能せず課題が残ったため、改善策を検討中である。	○	今後、ホーム独自で実施しケアの中での避難をどのように行っていくか検討してほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	食事量や水分摂取量をきちんとチェックし、把握している。また、栄養が偏っている場合には栄養補助食品などを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	食卓であるテーブルと休憩用のソファは視線が合わないよう設置している。前回の外部評価結果を参考に、玄関外の造花の飾りつけ、事務的な扉をカレンダーで隠す、浴室にすだれや造花で飾りつけをするなど家庭的な雰囲気作りを全体的に行っている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者にとって居心地のいい居室になるよう家族等へ利用者本人が好むもの等の持ち込みを依頼しているが、まだ不十分である。	○	利用者本人にとって居心地がいい居室になるよう今後も継続して家族等に相談してほしい。

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	せんだんの家
記入担当者名	清水 貞子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。